

受賞者のその後の取組（平成 29 年現在）

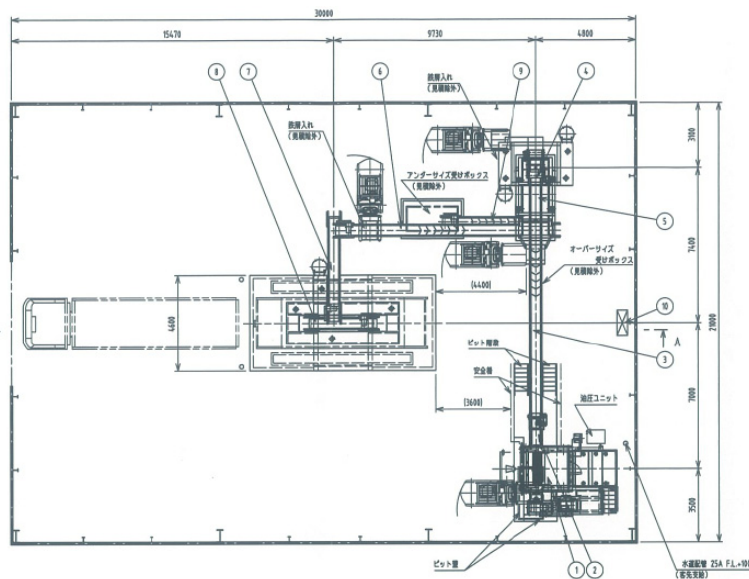
平成21年度 内閣総理大臣賞 受賞	受賞者名
	積水ハウス株式会社
	所在地 大阪府大阪市
	受賞テーマ 工業化住宅における継続的なゼロエミッション活動 － 業界初の4部門ゼロエミッションの達成 －
1. 活動継続 あり 2007 年 4 部門（工場、新築現場、アフターメンテナンス、リフォーム）のゼロエミッションを達成し、以降その運用を維持している。	
2. 活動の広がり あり 4 部門（工場、新築現場、アフターメンテナンス、リフォーム）に加え、積水ハウスの賃貸住宅商品の管理会社が行う修繕・模様替えにおけるゼロエミッションを一部開始した。	
3. 活動の進化 あり 平成 29 年 1 月より、これまで使用していた電子メールを中心とした廃棄物回収管理システムをスマートフォンの普及を前提としたクラウドを中心としたシステムに刷新した。	
【主な刷新部分】 ① iPad 普及を踏まえ、クラウド上のサーバーによるアクセスを基盤とし、現場での手間を最小化ししつ、確実性を増す機器構成とした。 ② クラウド上の地図アプリなどと連携、物件情報データベースと緊密に連動することで、配車の合理化などに活用できるようにした。 ③ 重量計測システムについても平成 22 年 11 月に全国展開した IC タグの使用を中止し、管理を簡素化した QR コードを用いたラベルを使用したシステムにした。 ④ QR ラベルの発行枚数と使用枚数、モデルごとの廃棄物量の分析など各種の分析データを支店・開発部門・工場などへフィードバック、グループ各部門の緊密な連携により環境活動をより強力に推進できるようにした。	
QRラベルによる資源回収の概念図 支店・施工現場 ① ラベル印刷 ② 27 分別 ③ ラベル取付 ④ 回収計画 ⑤ 数量を登録 ⑥ 集荷・運搬 ⑦ 荷降ろし ⑧ 読取・測定 ⑨ 最大 80 分別リサイクル 分析データのフィードバック 邸情報データベース 資源循環センターへ	

4. 今後の計画

住宅を長期にわたる良質な資産として育てる、長寿命住宅の供給、住まい方や社会変化に対応する適切なリフォーム・リノベーションをグループ連携で提供。これら既存建物の有効利用の過程において発生する建設廃棄物のゼロエミッションを業界に先駆けて達成したが、今後は業界連携での3R推進の取り組みで、社会インフラレベルでのゼロエミッションの実現を目指す。

5. その他特記事項

平成 28 年 7 月 12 日より、茨城県の施設設置許可・環境省の広域認定許可を受け能力 36t/日の木くず破砕機を稼働、自社内で製紙・合版原料を製造する本格的な処理を開始した。



関東資源循環センター内 大型の木材破砕機

さらに「積水ハウス エコ・ファースト パーク」内に平成 28 年夏にオープンした、小学生らがリサイクルの仕組みを楽しく学べるよう作られた学習スペースの「森の教室」に小型の破砕機を設置、子どもたちに建築廃材を資源として再利用する仕組みを学んでもらう施設として利用している。



森の教室に設置の木材破砕機

人体や環境にやさしいグ
ラウンド用白線「プラタマパ
ウダー」(平成 23 年度リデュ
ース・リユース・リサイクル推進功労者等表彰 会長賞受賞)の内容も含め、継続して環境教育を視野
に入れた環境配慮(環境活動の啓発)情報の発信を発展させている。

【表彰概要】

同社は、業界で初めて住宅部材生産、新築施工、アフターメンテナンス、リフォームの4部門でゼロエミッション（再資源化率 100%）を達成。さらに、自社の中古住宅を最新の仕様に再生・販売する新しい事業により、住宅自体の長寿命化・循環使用を図る等、住宅業界における3R推進の先導的役割を果たしている。

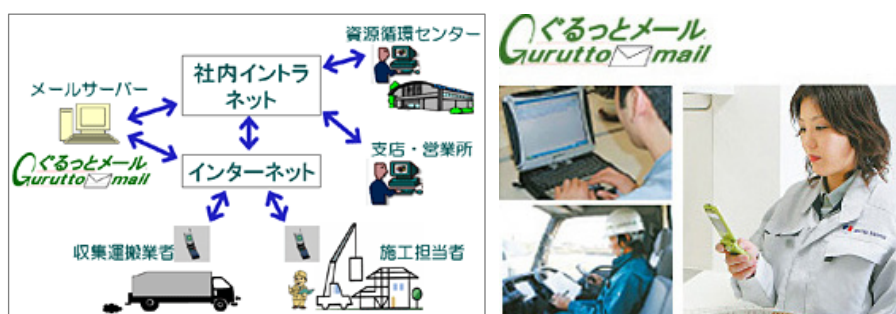
1. 住宅部材工場にけるゼロエミッション達成

外壁・内装材等の住宅部材の生産工程から発生する各種廃棄物・副産物について、同業他社に先駆けて2002年にゼロエミッションを達成した。

2. 新築現場におけるゼロエミッション達成

他社に先駆けて住宅新築現場廃棄物の徹底分別回収を実施し、2005年に全国の現場でゼロエミッションを達成した。従来、困難とされていた新築現場廃棄物の徹底分別を実現した主なポイントは以下の通り。

①多様な新築現場廃棄物を的確に分別するガイドの策定、②現場作業員に対する環境教育・啓発、③建設業界初の広域認定の取得、④散在する住宅新築現場から発生する少量・他品目の廃棄物を効率的に回収するとともに、回収・リサイクルした廃棄物の種類・量・流れ等の情報を一元管理するシステム「ぐるっとメール」の開発、等。



住宅新築廃棄物の効率的な回収・リサイクルを可能とした「ぐるっとメール」システム



業界初の広域認定制度による住宅工事現場廃棄物のリサイクル

3. アフターメンテナンスにおけるゼロエミッション達成

販売した住宅の定期点検・補修時には、新築工事とは異なる廃棄物が発生する。同社では、これらのアフターメンテナンス廃棄物についても詳細な分別ガイドを策定し、約70万戸の住宅を対象に行われるメンテナンス業務から発生する廃棄物について、2006年3月にゼロエミッションを達成した。

4. リフォーム工事におけるゼロエミッション達成

リフォーム工事は、工期が短く、既存建材の部分解体が伴うため、廃棄物の分別は新築工事よりさらに困難とされていた。同社では、工事の類型化（7分類）と工事種類毎の分別内容の取り決め等により、関連企業の積水ハウスリフォームが行うリフォーム工事から発生する廃棄物について、2007年10月にゼロエミッションを達成した。

▼ リフォーム施工現場での分別作業



▼ 資源循環センターへ運搬



▼ 資源循環センターでさらに分別を行う



以上により同社は、業界で初めて、工場・新築・メンテナンス・リフォームの4部門全てにおけるゼロエミッションを達成した。

5. 中古住宅の再生事業

自社の中古住宅を買い取り、まだ使える構造体を活用しつつ、純正技術により、現在の耐震基準や断熱性能、最新設備を備えた住宅に再生して再分譲する新しい事業「エバーループ」を実施。これにより、住宅自体の循環使用・長寿命化を図るとともに、住宅の建て替えに伴って発生する建設副産物を約70%以上削減する等、省資源と環境保全に大きな効果を上げている。

1. 基礎と構造躯体（スケルトン）を残して解体
2. 開口部に高性能複層ガラスを採用。壁内部には新築と同じ断熱材を充てん



以上のように同社は、工業化住宅のライフサイクル全般（部材生産→新築施工→メンテナンス→リフォーム→中古住宅）における3Rについて先進的な取り組みを行うとともに、広く取り組みの情報を開示し、業界全体の3R推進に寄与している。具体例としては、同社が業界初の広域認定を受けた後、そのシステムを参考に、他社も追随して認定を受けるケースが出てきたことや、新築施工現場におけるゼロエミッション活動において、同社のモデルが多く採用されていることが挙げられる。